

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500819		
法人名	医療法人社団 誠道会		
事業所名	グループホーム菜の花		
所在地	岐阜県各務原市鵜沼東町6-8-1		
自己評価作成日	令和5年10月1日	評価結果市町村受理日	令和5年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2170500819-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和5年10月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念の「地域に根ざした医療と介護と福祉を誠の心で実践します。」を理念に協力医療機関と連携を取りながら、医療・介護の両面からのサポート体制が出来ている。又、「家での生活の継続」を心がけ、利用者様のペースで生活することをリハビリと考え「普通の暮らし」が維持出来るように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コの字型に並ぶ木造平屋建ての事業所は、日当たりも良く、2ユニットのどこからでも、中庭や周囲が眺められる明るい雰囲気のあるホームである。交通量の多い国道沿いから、少し入った場所ではあるが、車の音もほとんど気にならない。リビングには畳敷きのスペースがあり、家庭的なくつろぎ感があり、「家での生活の継続」を心掛ける支援で利用者の表情も穏やかである。母体が医療法人社団であり、医療・介護のサポート体制は、家族の安心と信頼に繋がっている。また、職員に向けてのサポートも、研修受講や資格取得を積極的に支援し資質向上に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、名札に法人理念を携帯し確認できるようにしている。事務所・各ユニットにも掲示してある。	法人理念である「地域に根差した医療と介護と福祉を誠の心で実践します」については、代表が全職員に説明している。また、職員は名札にも理念を携帯し、常に確認しながら実践にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが5類になったが、施設への出入りの制限は行っている。家族との面会は飛沫シートを使用し、短時間の面会に留めている。	コロナで人の出入り等、まだ制限はあるが、近所の人が介護の相談に訪れたり、同法人の管理する隣の託児所の子供たちも、中庭で遊んでいる。事業所は自治会に加入しているが、現在は行事も中止している。以前交流のあったボランティアの受け入れも、今後再開したいと考えている。	コロナ禍で途絶えてしまったボランティアによる催しは、利用者も楽しみにしている。収束後には、積極的に受け入れができる体制作りを期待したい。
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いたアドバイスなどあれば、月1回のカンファレンスで報告し検討している。	運営推進会議は、今のところ書面で行われている。委員からは多くの意見が届き、それに対して誠実に回答し議事録も整理している。利用者家族からは、イベントの写真についての質問や要望が出され、運営に活かしている。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在も運営推進会議を書面で行い、現状の状況や取り組みについてのアドバイスを頂いている。	コロナ禍で、各務原市の特徴とする事業者協議会の活動が下火となり、市からの情報はメールで届いている。行政に疑問などがある場合は、いつでも相談できる体制にある。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会は行っているが、身体拘束は行っていない。夜間は利用者様の安全上玄関の施錠を行っている。	3か月に一度の身体拘束適正化委員会は、実際のケースでの意見交換をしており、拘束をしないケアに繋げている。日中は窓を開けて風通しを良くしているが、夕方以降は防犯の意味も含めて施錠している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	顔の表情・入浴時の身体状態を観察している。虐待防止の勉強会を行っている。	虐待防止の勉強会は、身体拘束適正化委員会で同時に行われている。圧迫痕のできやすい利用者と手をつなぐときは注意している。令和6年3月までに虐待防止のための指針を整備し、運営規定の中に「虐待防止のための措置に関する事項」を追加する予定である。	虐待防止委員会は開催しているものの、明確な議事録がない。虐待の発生または再発を防止するため、委員会の議事録と指針の整備を行い、運営規定にも虐待防止の為の措置に関する事項など、追加されることを期待したい。

岐阜県 グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人を利用している利用者様は居ないが、必要があれば、後見人センターに連絡し、相談を行っている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人・家族が納得されるまで、説明を行っている。入居後も質問事項があった場合、その都度説明している。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族の要望や意見を伺うように心掛けている。又、入居時に家族の意向を確認している。	コロナ感染症の感染症法上の位置づけが5類に変更になった事で、家族との面会も可能となり、家族から意見や要望が聞きやすくなった。利用者のイベント写真や個別の便りを家族に送り、遠方の家族には電話やメールで意見を求め、運営推進会議についても報告をしている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月カンファレンスを行い、疑問点や改善策を話し合っている。運営に関する問題は、上司に報告している。	管理者は日頃から現場に入り、常に職員と意見交換しやすい関係ができています。毎月のカンファレンスで業務日誌や申し送り事項について、疑問点を解決し、職員からの改善要望等も受け止めています。運営に関する内容は上司に伝えるなど、現場の声を届けている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	個々の得意とすることを把握し考慮しながら、年間業務の担当を決め、それぞれの業務に取り組んでいる。	クラフト作成やレクリエーション等、職員の得意とする分野を活かし、役割分担をしながら支援にあたっている。年次有給休暇は、シフトを組む段階で職員の要望を聞いている。休憩室が完備されており、休憩時間が適切に取れている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に教える為、力量をチェックし理解に努めている。法人内の研修に参加している。人事評価制度を行っている。	年間研修計画に基づき、職員は希望する研修を受講出来ている。研修費用は原則本人負担であるが、業務上必要な研修や介護支援専門員の受講費用は、事業所が一部を補助している。人事評価制度を取り入れ、職員の意欲向上に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、他施設との情報交換はリモートなどで行っている。必要があれば現場にも伝達を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ペーパーたたみ・ゴミ箱作り・洗濯物干し・たたみ等職員と一緒にすることで、家族という意識を持ち業務を行っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の要望を尊重し、居室で過ごしたい方は無理に誘わない。本人のペースで過ごして頂く。	入浴介助など、個別支援事は利用者も普段より話してくれる事も多く、新たに得られた利用者の思いや意向を業務日誌に記入し、職員間で共有している。コミュニケーションの困難な利用者の思いや意向は、表情や仕草から汲み取っている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・本人の思いを確認し、計画書を作成している。生活記録より状態を把握しケアプランに反映出来る様にしている。	3か月に1回、本人・家族の思いや要望を中心に、関係者からの情報をまとめ、プランの見直しを行っている。本人の状態に大きく変化があった時は、その都度見直している。計画書に上がった幾つもの課題がある中で、その利用者にとって何が一番大切かを挙げ、取り組めるよう計画作りを行っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の変化や様子を記録し、それに基づいたプランを作成している。日常生活で知り得た情報は、申し送りで共有している。	毎日の様子や変化について、業務日誌や個別記録に記入しており、全職員が就業前に閲覧し情報共有をしている。また、記録を基に介護計画の見直し及び評価をしている。午前・午後・夜間の職員の切り替わり時にも、ケア記録を中心に引継ぎ、一貫したケアに取り組んでいる。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望が強い時は、興味を示す作業などを一緒にいき、気分転換を図る。	病院受診や銀行など、家族付き添いでの外出は臨機応変に対応している。緊急時に家族が付き添えない時は、職員が対応している。また、帰宅願望が強い利用者の場合は、1日の予定を変更したり、興味を示す作業等を一緒にしながら、気分転換を図っている。	

岐阜県 グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、ボランティアの方との交流は行っていない。状況を見ながら、交流を深めていきたい。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	専門院の受診が必要な場合は、家族と連絡を取り、受診がスムーズに運ぶ様に心掛けている。	契約時に、本人・家族に入居前からのかかりつけ医と協力医を自由に選択ができることを説明している。現在は全利用者が法人の協力医を選択しており、体調変化にも素早く対応している。受診時には、情報提供がいつでもできるよう用意している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	施設内での様子をサマリーにまとめ、医療機関に情報提供している。相談員と情報を共有し退院を決めている。	利用者にとっては、入院という環境変化はダメージが大きいこともあり、事業所でのサマリーにまとめ、入院先の医療機関に提供し、早期退院できるように連携を取っている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族と話し合いの場をもうけ、今後の意向や事業者で出来る事を明確にする。本人・家族が望むケアが出来る体制を作っている。必要であれば、医療機関・施設に依頼している。	入居時に看取りの対応はしていないことは説明している。重度化した時は、早い段階で家族と話し合い法人内の訪問看護が対応している。法人で出来ることを説明し、医師・家族と相談しながら、入院、他施設など紹介している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルに沿って対応している。施設内にAEDを設置している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、避難方法等を周知している。緊急連絡簿を作成し、協力体制も整えている。	年2回、避難訓練を実施し全職員に避難方法を周知している。夜間の火災発生を想定し、一人の職員が利用者を一人ずつ安全な場所へ誘導する訓練も行っている。夜間でも、民生委員との連絡体制があり、災害用備品や土嚢等の備蓄も整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室などプライベート空間に居る時は、声掛け・ノックを行っている。必要に応じて1対1でお話し、プライバシーに配慮している。	排泄の失敗などで援助が必要な時でも、本人の気持ちを大切に考え、さりげないケアを心掛けている。また、入浴介助は同性介助など、利用者本人の希望に合わせて行っている。職員は、新人研修や接遇研修等で、人権尊重やプライバシーの保護について学んでいる。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的に意思を尊重している。お話しする際も本人が、自分で決定できる様な声掛けを行うよう配慮している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日を穏やかに過ごす事を考え、気分が乗らない時間や拒否がある場合は時間をおくなどの配慮している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝の会で1日のメニューを利用者様に読んでもらっている。テーブル拭き・食器の洗浄など職員と共に行っている。	同法人の栄養士による献立で、職員が3食手作りしている。利用者の中には、昔の習慣で「朝食を作らねば」と部屋から出てくる人もあり、テーブル拭き等を手伝ってもらっている。利用者の意向を重視して、朴葉寿司や誕生日ケーキと一緒に作っている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎日チェックを行い、摂取量が少ない場合は主治医に相談している。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様に合わせ、付き添いを行う。自己にてできない場合は介助を行っている。	朝・昼食後は、利用者が自主的に歯磨きを行っている。夕食後は、全員に歯磨きをするよう、職員が声掛けし、入れ歯の人や自分で出来ない人は介助しながら、口腔ケアを確実にできるよう支援している。	

岐阜県 グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を記入し、時間を見てトイレへの声掛けを行い、パット汚染を少なくなるよう行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴を拒否する利用者様には、毎日声掛けを行い、気分のいい日に入って頂く。その人にあつた温度調節を行っている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	馴染みの枕・布団を入居時に持ってきてもらう。傾眠されているときはソファ・ベッドで休んで頂くなど、負担のかからない対応を行っている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を参考にして副作用や留意点などを日常からチェックし異常があれば医療機関に報告し指示をもらう。	誤薬防止マニュアルに沿って、誤薬や薬の飲ませ忘れがないよう支援しているが、時々、誤薬や飲み忘れが起きており、再チェックを厳しくしている。処方に変更がある時は、利用者の体調に変化がないか観察し、情報を担当医に提供している。職員間でも情報の共有をしている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵・折り紙・手作業・手芸・選択干しなど負担のかからない程度で行っていただいている。	本人の得意とする事で、負担のない程度に行ってもらっている。入居前まで自宅で行っていた趣味(習字や編み物等)を継続している人もある。また、毎日のタオルたたみや洗濯してくれる利用者には、職員がきちんとお礼を言っている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日に人混みを避け、ドライブに出掛けて季節を感じて頂いている。	コロナ対策での制限が少しずつ緩和され、天気の良い日は少人数でドライブに出かけている。ただし、喫茶店や外食は控えている。コロナ収束後には、家族と共に昼食など楽しむことができるようにしたいと考えている。	

岐阜県 グループホーム菜の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、金銭の預かりは行っていない。持参などもされていない。入居時に金銭を見つけた場合、家族へ返却している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参された利用者様は自由に家族へ連絡している。本人が希望された場合は、職員が家族へ連絡し、本人とお話されたり、要件を伝えている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節がわかるように、お雛様、クリスマスツリー、鏡餅をリビングに飾っている。	廊下や食堂が広く、車椅子での往来が自由にできる。食器類は自動食洗機で洗い、清潔が保たれている。浴室も洗い場が広く、介助しやすい造りになっている。トイレの数も十分にあり、利用者は安心して使用できる。廊下やリビングの壁、居室にも作品が展示され明るい雰囲気である。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで会話をされたり、天気の良い日は玄関先のベンチに座り、お茶を楽しんで頂いている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が自宅で使っていたタンス、時計などを持ってきていただき、使用している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室にはそれぞれ名前を掲示し、利用者様にわかりやすくしている。リビングに今日の日付がわかるように掲示している。		